

# KLIS TODAY

No.  
35

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 日本学生支援機構優秀学生顕彰の「大賞」を受賞

富平 準喜

この度は、日本学生支援機構優秀学生顕彰の産業・イノベーション部門の大賞を受賞させていただきました。

受賞に至ったのは、スポーツ選手とリアルタイムでシンクロするスポーツ観戦システムの開発の研究成果を認めていただいたからです。この研究成果は、オリンピックでの実用化を目指しています。

スポーツ観戦システムの開発は筑波大編入前の高専3年生のときの文化祭から始まりました。文化祭で全自動のジェットコースターを作ったことから、それをスポーツ観戦に改良してプロコンに出場し優勝、さらに卒業研究では製品化を目指し開発を進め、様々な場所で展示を行ったりもしました。たくさんの苦労がありながらも、3年間かけたプロジェクトはオリンピックでの実用化に近づき、遂に受賞に至りました。

筑波大に来て、3年生ですが教授にお世話になりながら、高専の卒業研究の続きをさせていただいています。

本当に色々な人たちに支えられたからこそ、今回の受賞に繋がったと感じています。

(とみひら・としき 知識情報・図書館学類3年次)



## 国際インターンシップ体験談

アメリカでの IIS を経て

須藤 芳加



私は 2018 年 9 月 3 日から 14 日までアメリカでの国際インターンシップに参加しました。アメリカ合衆国ペンシルバニア州にあるピッツバーグ大学の附属図書館、ヒルマン図書館で蔵書整理のプロジェクトに携わらせていただいたり、夕方以降は公共図書館でボランティアで行われている日本語クラスにも参加させていただき、現地の方々と沢山交流することで様々な事を学ぶことが出来ました。インターンシップに参加して図書館の理念や生涯学習について考えさせられたり、日本の図書館に求められていることの一部を知ることが出来ました。ヒルマン図書館員の方々や担当してくださった先生方のおかげで刺激的な 2 週間を過ごせたこと深く感謝いたします。

(すどう・よしか 知識情報・図書館学類 3 年次)

国際インターンシップ体験談 (ドイツ)

岡崎 那菜、廣田 美香

私たちは 2017 年 9 月に国際インターンシップでドイツを訪れ、南ドイツの 2 つの公共図書館と 3 つの大学図書館を見学しました。準備段階においてもドイツの図書館に関して勉強をしてから渡航をしたのですが、実際に現地に出向いて図書館員の方からお話を伺ったり、図書館を見学したりといった体験は、日本で調べたことと比較して格段に多くの学びがあったように思います。例えば公共図書館において、ゲームや漫画のイベントなど多様な児童サービスが展開されていたことや、日本の図書館ではあまり見られない楽譜や試奏を行えるピアノが図書館内に整備されていたことは大変興味深く感じました。また、日本の図書館事情について現地の図書館員の方々と話した経験も、改めて日本の図書館について多角的に理解する糧となりました。



最後に、国際インターンシップ担当の先生方、ドイツで受け入れていただいた図書館の方々に深く感謝いたします。

(おかざき・なな、ひろた・みか 知識情報・図書館学類 3 年次)

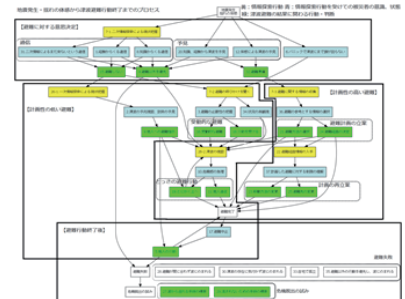
## 卒業研究紹介

### 情報探索行動は津波避難行動にどう影響するのか

永野 玄樹

私は知識科学主専攻において、「津波避難行動における情報探索の影響」について研究しました。津波避難と情報探索行動の両者に着目した先行研究は少なく、「得た情報は津波避難にどう影響するのか」と考えたのがきっかけです。そこで M-GTA 法という質的分析手法を用いて、被災者の震災体験記を分析しました。データの意味解釈など多くのことが分析者の判断に委ねられた手法のためとても大変でしたが、津波避難プロセスの類型化や、情報探索の影響についての考察ができました。研究結果が少しでも被害を減らすことに貢献できればと思っています。

(ながの・げんき 知識情報・図書館学類 知識科学主専攻4年次)



### 機械学習で写真から被写体を切り出す

谷口 正樹



自分はこの1年「ポートレート画像に対する Trimap 生成手法」という題で研究を進めてきました。Trimap は写真から被写体を切り出す際に必要な中間データのことで、現在は人手で作られることの多いデータです。自分は CNN と呼ばれる機械学習モデルを用い、このデータの自動生成に挑戦しました。結果として、自分の提案手法は半分成功半分失敗といった具合でしたが、1年間一つの課題に集中して向き合い、浮上する問題点と戦い続ける過程は大変やり甲斐あるものでした。この研究が少しでも画像・映像編集者の負担を減らすことに繋がれば幸いです。

(たにぐち・まさき 知識情報・図書館学類 知識情報システム主専攻4年次)

### 公共図書館における認知症カフェ

小野瀬 春香

私は情報資源経営主専攻において「公共図書館における認知症カフェの現状と課題」というテーマで卒業研究に取り組みました。「認知症カフェ」とは、認知症の人やその家族が自分らしさを発揮しながら地域の人と交流できる場であり、地域の人々が認知症の知識を得られる場として注目されている取り組みです。そして、図書館の持つ場所としての特性や図書館の資料を認知症カフェで活かせるのではないかと考え、図書館における認知症サービスとしての認知症カフェの可能性に着目し、文献調査やインタビュー調査を行いました。今回の成果が少しでも現場のお役に立てればと思います。



(おのせ・はるか 知識情報・図書館学類 情報資源経営主専攻4年次)



## 人工知能は分類をしているのか

緑川 信之

私たちの身の回りではさまざまな分類が行われています。テレビ番組はドラマ、バラエティ、ニュースなどに分類されていますし、図書館では本が哲学、歴史、自然科学、社会科学などに分類されています。もっと身近なところでは、好きな食べ物と嫌いな食べ物に分類したり、夏用と冬用の衣服に分類したりしています。また、知人を「・・・タイプの人だ」と性格づけることも、一種の分類といえます。このように、人はいつも分類をしています。

その一方で、自然界にも分類のような現象がみられます。水と油の入った容器を静かに置いておくと、水が下に行き、油が上に行きます。磁石は鉄やニッケルにはつきますが、木材にはつきません。自然は分類をしているのでしょうか。私はそのようには考えません。水の分子の間に油の分子が入り込めないのが、比重の大きい水が下に行き、比重の小さい油が上に行く、という自然現象として説明できます。磁石がつくつかないかも自然現象です。壁にボールをぶつけると跳ね返ってくるのと同じ、自然現象です。自然が分類をしているようにみえるとしたら、それは人間が擬人化して試しているからです。

では、人工知能は分類をしているといえるのでしょうか。確かに、人工知能は何かを自分で判断しているようにみえます。判断するということは、これをしてあれをしないという分類をしていることになりますが、実際には、0と1のパターンに基づいて動作をしているだけで、これも一種の自然現象といえます。人工知能が分類（判断）をしているようにみえるとしたら、やはり人間が擬人化して試しているからです。それでは、分類をする人工知能は作れないのでしょうか。逆に、人間が行っている分類も自然現象ではないのでしょうか。私たちはあたりまえのように分類をしています。分類とは何なのかわからないことの方が多いのです。分類という視点から知識情報学を学び、研究する人がでてきてくれることを期待しています。

(みどりかわ・のぶゆき 知識情報・図書館学類 教授)